

【宮古島市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代の到来や社会の急激な変化に対応するためには超スマート社会(Society5.0)を生きる力を身につけていく必要がある。そのような力を身につけていくためには児童生徒が主体的に学び取るための道具としてICTを適切に使いこなすことが必要であり、そのための資質・能力として「情報活用能力」が求められる。

本市では「情報活用能力」を「超スマート社会(Society5.0)を生きる力」と捉え、「情報活用能力を備えた創造性に富んだ人材育成」を基本方針として、教育の情報化を推進している。

個別最適な学びの実現について、児童生徒一人一人の学習進度や得意不得意、興味関心が異なることから、ICTを活用することで児童生徒一人一人に合わせた学習を行うだけでなく、主体的に学び直しや深い学びを行うことで可能性を最大限に引き出せることを目指す。

協働的な学びの実現について、同じ立場で互いに刺激し合うことで他者の多様な意見や価値観に触れ、多面的・多角的に考える力を身につけることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末を活用していく中で、複数端末の同時アクセス時に通信の遅延や切断が発生するなどの課題が明らかとなったことから、Wi-Fiのアクセスポイント増設及び移設やネットワーク回線の帯域増強などの整備を実施した。

教育現場では、デジタルドリルによる主体的な学びやGoogle Workspace、Jamboard等を利用した校内での資料の共有や情報共有だけでなく、Web会議アプリケーションを利用したオンライン授業や県外の学校との交流等の活用が進んだことから、ICTの活用が着実に根付いてきている。

一方で、各学校間やクラス間、生徒間での利活用に差が出てきていることから、研修会等の開催や生徒が自主的に利活用できるよう、学習コンテンツの利活用を進めていく必要がある。

また、端末の破損や部品の紛失が多数発生していることから、正しい端末の取り扱い方法について周知を行っていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA 第1期により、ネットワークやデジタルドリル、授業支援アプリケーションの整備が進んだことで、児童生徒が端末を文房具の立ち位置として「個別最適な学び」に活用できるよう、コンテンツ環境を引き続き維持していく。また、液晶型大型電子黒板の導入により、無線で電子黒板に投影が容易となったため、発表等で活用していくことで「協働的な学び」をより一層進めていく。これらの学びを継続するために児童生徒向けの1人1台端末を引き続き維持する。

一方で教育ダッシュボードによるデータの分析や教育情報セキュリティポリシーの認識不足が課題と思われることから、これらの周知も進めていく。